



# 木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2018年6月10 (日) 9:30~12:00 (曇り雨)

参加者 一般：4名 (うち子ども2名)、

指導員：4名

## テーマ 「川原の植物」

先月、観察コースにある堤防などの草刈りが実施されたので、1 か月経ってどのように変化したかを見ながら回りました。

草刈があったことは一目瞭然ですが、随分草丈が伸びていますし、コウゾリナやブタナなどは花を付けていました。クズやクワイモなど根に養分を蓄えているものはそこから新しい芽を伸ばし、刈り残されたものや土の中の種子は周りの草がなくなって日が当たるようになったので、ここぞとばかり葉を繁らせようとしているのでしょう。植物の世界の生存競争が感じられました。

川原ではカワラの名がつくカワラマツバ、カワラサイコが花をつけ、芝に混じってマンテマやコマツヨイグサ、オオニワゼキショウ、セッカニワゼキショウといった外来種の花も見られました。

堤防脇の道路で、黄色の花を付けたマメ科の草を見つけました。外来種のセイヨウミヤコグサで、もっと下流の稲沢市の堤防ではたくさん生えているのを見かけましたが、ここでは初めてです。いろいろな外来種の進出が見られますね。

川原の林ではアカメガシワが咲いており、雄株と雌株で花を比較して違いを確認しました。雄花には蛾の仲間が集まっていて、一番目立つものを「トンボエダシヤク」と紹介しましたが、参加者からよく似た種があると聞き、家に帰ってデジカメ画像を見たところ、腹部の黄色の帯模様の間隔から「ヒロオビトンボエダシヤク」という種名だと判明しました。よく似た生物種の同定は難しいですね。気を付けなくっちゃ (反省)。

今回も空模様がはっきりせず、傘が手放せない観察会でしたが、帰り際に少し降られただけで回ることができ、幸運でした。(報告：齋竹)



(セイヨウミヤコグサを観察)

### <その他観察できたもの>

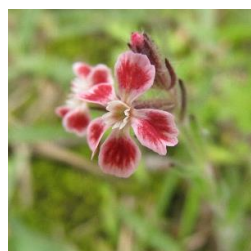
鳥：ダイサギ、アオサギ、ツバメ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、ムクドリ、ハシボソガラス、オオヨシキリ (声)、キジ (声)、ウグイス (声)

虫：シオカラトンボ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ベニシジミ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ、コアオハナムグリ、ナミテントウ、セイヨウミツバチ、アメリカシロヒトリ (幼虫)

花：タイサンボク、ヒメブタナ、オオキンケイギク、ニガナ、ノアザミ、ヒメジョオン、ウラシロチチコグサ、ニワゼキショウ、カナビキソウ、クララ、ヒナキキョウソウ、ナヨクサフジ、シロツメクサ、コメツブツメクサ、コメツブウマゴヤシ、ヒサウチソウ、ドクダミ、ミナトマツヨイグサ



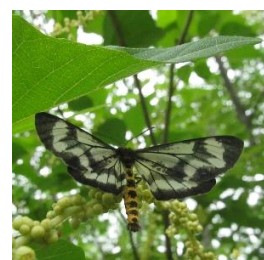
(カワラサイコ)



(マンテマ)



(セイヨウミヤコグサ)



(ヒロオビトンボエダシヤク)